

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年 3月 1日

事業所名 児童発達支援センタークムレ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題・改善すべき点(改善内容)等
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋をパーテーションで仕切っている ・クラス間で部屋割りをし、各クラスで調整して使用している ・クラス全員等大勢で実施する際は広い部屋を使用する ・グループ分けしたりして少人数や単独で活動をおこなっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育園の建て替えに伴い、利用できるスペースが少なくなるなど不十分な点がある。活動場所や共通で使用する部屋の使い方を引き続き工夫するなどしていく
	2	職員の配置数は適切である	○			<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じてヘルプがし合えるようにクラス間、職員間で協力していく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて行っている ・衝立等を減らしたり視覚的に手順書で知らせたりできている 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の成長や体の状態に合わせたイスや机を用意したりトイレなどの移動も考えていく必要がある
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き安全、清潔点検を実施し、老朽化に伴う不具合(親子棟)に対応していく
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・職員の意見は聞いて改善している 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、嘱託職員含め全職員が自分の問題として考え、意識して取り組めるようにしていく
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、嘱託職員含め全職員が自分の問題として考え、意識して取り組めるようにしていく
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・複数の職員で話し合い、アセスメントしている 	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・特性把握シート等を活用している ・個々に応じた支援グッズを作って 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントシートについて検討していく
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題・改善すべき点(改善内容)等	
適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○	・各クラスで話し合いながら進めている		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・様々な活動を取り入れようとしている。活動の連続性という点にも考慮していく	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・ボードを活用して見て分かるようになっている ・目で見て分かるようにスケジュールが組まれている	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	・クラスノートに気づいた点を記入し、皆で確認し共有している	・嘱託職員とは勤務終了時間が異なるためノートを活用して共有しているが、伝わり方が十分でなかったり時間がかかったりするので話し合いの時間を確保していくようにする。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○				
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			該当なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			該当なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・移行する際は事前に関係者で会議した	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・学校の先生に来園してもらい、支援グッズ等を共有している ・見学の受け入れ、引き継ぎ等を行った	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		・機会は少ないので同法人内の事業所及び他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所等との研修・スーパーバイズを受ける機会を積極的にもっていくようにする
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		・年長児が公民館等に行っている。もちつき会等も。	・年長児に限らず交流の機会をもっていくとともに、保護者にもその目的をきちんと伝えていく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題・改善すべき点(改善内容)等
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・登降園時に話せる時にはしっかり伝えている	
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			・日程や希望の募り方について検討をし、より多くの方が参加しやすい工夫を行う
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・困っている保護者はもちろんだが、「今日は特にこの人と話そう」と決めて関わっている ・クラス間で共有できるように話し合っている	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・親子通園は座談会を行っている	・父親同士の交流の機会も設定していく
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・毎月、クムレだよりでお知らせしている	
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	○		・(登降園時保護者と話す際)周囲の人に聞かれないような声の大きさにしている。内容によっては人がいないところで話すなど配慮している。	・引き続き、十分に注意していくようにする。
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・子どもだけでなく保母者への伝え方にも配慮している	
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			
	非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		
42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○			・いざとなった時に適切な行動、対応ができるよう引き続き訓練を実施していく
43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している		○			・状況確認はしている。シミュレーション等もしっかりと行っていく。
44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○			
45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○			・綴りの保管場所を職員に周知する

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題・改善すべき点(改善内容)等
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。